



大井町立相和小学校

学校通信

そわ通信

1月号

発行日

令和2年1月20日

発行者

中山 喜幸

新しい年の決意を込めて、書にチャレンジ



書き初め会（令和2年1月9日）

しんと冷えた体育館で、新年を迎えた喜びと決意を込めて書き初めをしました。身にしみる寒さの中、物音一つさせない静けさから、みんなが「書」に集中していることがわかります。大きな画仙紙に太い筆を使って、文字の形や大きさ、中心などに気を付けながら一画一画丁寧に書く姿は、真剣そのものでした。

1年生はお正月にしたこと・見たことを、2年生は冬休みのできごとを、鉛筆で書きました。3年生は「美しい心」、4年生は「流れる星」、5年生は「進む勇氣」そして、6年生は個別に選んだ四字熟語を毛筆で画仙紙に書きました。

6年生が個々に選んだ四字熟語には、小学校最後の年を迎え中学校に向かう決意・抱負が込められています。お手本は、放課後教室の野地泰次先生が一人ひとりにむけて書いてくれました。そこには、付箋で個々の子どもたちへのアドバイスもありました。

1月24日（金）まで、各教室の廊下に掲示してあります。来校の折にはご覧ください。それぞれの個性と新しい年にむけた思いが感じられます。



卒業式（3.19）にむけて

「1月は行ってしまふ。2月は逃げていく。3月は去っていく。」とよく言われます。新年を迎え、年度末を迎えるまでの時の過ぎる速さを表現した言葉です。もっとも大事な学校行事である卒業式は、まだ先のことと思っても、もう目の前です。

6年生の書き初めを見ると、それぞれが抱く「ありたい自分の姿」を表現しているように感じられます。これまで6年生は、全校のリーダーとして、全校を引っ張ってきました。仲間と目標を共有し、努力してきた姿が思い返されます。そして、更に3月の卒業式にむけて、その集大成をめざします。

卒業式では、これまでの思い出とともに、自身の将来に夢と希望を抱きながら、卒業証書を受け取り、気持ちを込めて美しい歌声を響かせ、自信にあふれ凛々しくことばを発します。そうした6年生の表現するものに、1年生から5年生は感動し、憧れの気持ちを持ち、自分の目標とします。

こうしたねらいと雰囲気が、卒業式にはあります。同様に子どもの成長をお祝いする行事として七五三や成人式などがありますが、それとは違った学校行事としての意義が卒業式にはあります。

相和小学校教職員が一丸となって、このような卒業式になるよう努力してまいりたいと思います。ご協力をお願いします。

火災発生した場合の避難～自分の安全を守る能力を～

第4回避難訓練（火災）（令和2年1月10日）

「火災発生の通報を受け、消火活動に来ました。避難の状況は、どうですか？」

と、みんなに聞こえるぐらいの大きな声で、全員が校庭に避難し終えたと同時に、消防署の方が現れました。

今回の訓練は、火災報知の発令に伴い、火災発生の場合の確認と初期消火、119番通報、児童・職員の避難（防火扉・シャッターの作動時）と、子どもたちだけでなく、職員の一連の火災発生時における行動も含めて、消防署の方に見ていただき、指導をしてもらいました。

子どもたちは、口や鼻をハンカチで抑え、整然と校庭に避難することができました。

消防署の方からは、出来る限り早めの通報、初期消火の可否の迅速で適確な判断とともに、自らの安全の確保、トイレ等での避難遅れの子どもの有無の確認など、様々なアドバイスをいただきました。その後、消火器による初期消火の訓練を行いました。

火災発生時は、まずは人命が第一です。しかし、人命が助かったとしても、火災が起きてしまったら、自分たちのかけがえのない思い出の品・財産等を失ってしまいます。空気の乾燥しているこの時期は特に、細心の用心をすることも確認しました。



年末・年始の朝会（校長講話）から〈要約〉



令和元年12月24日（火）

論語という昔の中語でかかれたものに「今汝はかぎれり」という言葉があります。「やる前から自分にはできないとあきらめている」という意味です。「できない」は努力をしている人が言う言葉でいつかできるようになります。「やらない」はいつまでもできるようになりません。

A先生は、10月に行われた神奈川県教職員スポーツ大会の100mで5位に入賞しました。記録は12秒11だったそうです。A先生は高校時代陸上部で10秒56が自己ベストだそうです。

「できるか、できないかではなくて、自己ベストをめざしたい」と話してくれました。自分のめざすことにひたむきに努力しているその姿を「命が輝く」と言うのだと私は思います。



令和2年1月8日（水）

アサガオを育てたことを思い出してください。種から根が伸びていきます。そして、土を押し上げて芽が出て双葉になります。更には本葉が出てつるを伸ばし花を咲かせます。1株でふつう50～80ぐらいの花を咲かせるそうです。

小さく堅い種の中にそうした「成長のもと」が詰まっています。かくれています。これを「可能性」といいます。命あるものは、自分の「可能性」を自らの力で精一杯引きだそうとします。

皆さんの中にもすばらしい「可能性」があります。それを「自分から」そして「ねばり強く」成長させてください。「今年は～にがんばりたいな」と思うこと、それは可能性の芽生えです。

